

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																			
専門学校 日産横浜自動車大学校		昭和53年3月31日		市橋 天		〒 241-0014 (住所) 神奈川県横浜市旭区市沢町910 (電話) 045-371-2990																																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																			
日産自動車株式会社		昭和3年12月26日		内田 誠		〒 220-8686 (住所) 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地 (電話) 045-523-5523																																			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																																		
工業	工業専門課程	自動車整備科				平成6年6月21日 文部科学省告示 第12号	—																																		
学科の目的	自動車整備に関する専門技術及び理論を教育し、整備技術の進歩発展を通じて、社会に貢献できる人間性豊かな整備士を育成することを目的とする。																																								
認定年月日	平成6年6月21日																																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																		
	2年 昼間	2003.4	766.8	0	1236.6	0	0																																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																			
240人		135人	34人	14人	0人	14人																																			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 学科、実習共に60点以上を合格とする。 評価の方法: 学科、実習共に期末試験得点を成績得点とする。																																				
長期休み	■学年始:4月6日 ■夏季:8月1日～8月27日 ■冬季:12月20日～1月8日 ■学年末:3月21日～3月31日			卒業・進級条件	卒業要件:																																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人との面談、保護者への連絡、場合によっては家庭訪問等で面談を行い、改善指導を行う。また、学生の動向に関する情報は共有し、注視している。定期的に診療心理士のカウンセリングを実施。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 スーパーGTレース、スーパー耐久レース、ニスモ フェスティバル、グランドドライブでの試乗会、学生寮自治会組織、学園 ■サークル活動: 有																																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 日産販売会社を中心とした自動車業界			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																				
	■就職指導内容 就職観情勢授業・面接練習・卒業生とのディスカッションほか				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>80人</td> <td>79人</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>80人</td> <td>80人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	二級ガソリン自動車整備士	②	80人	79人	二級ジーゼル自動車整備士	②	80人	80人																				
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																																				
	二級ガソリン自動車整備士	②	80人		79人																																				
	二級ジーゼル自動車整備士	②	80人		80人																																				
■卒業者数 80 人 ■就職希望者数 75 人 ■就職者数 75 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 93.8 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																						
■その他 ・進学者数: 3人 ・帰国者: 2人			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0																																						
(令和 4 年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																									
中途退学の現状	■中途退学者 23 名 令和4年4月1日時点において、在学者176名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者153名(令和5年3月31日卒業者を含む)		■中退率 13 %		■中途退学の主な理由 学校生活への不適合・経済的問題・病気やケガ、進路変更、在留状況不良 学業不振、 ■中退防止・中退者支援のための取組 定期的な個別面談、カウンセリングの専門家の先生による面談等																																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生奨学金・遠隔地奨学金・企業推薦奨学金・リアライズ奨学金・留学生特別奨学金・オリエンタルパイオ奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																								
	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																																								

第三者による 学校評価	※有の場合、例えば以下について任意記載		
当該学科の ホームページ URL	評価団体： 0	受審年月： 0	評価結果を掲載した ホームページURL 0

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

卒業生の就職先である自動車整備業界の要請に応じ、実践的かつ専門的な職業教育を組織的に実践するために、また日々進化する自動車技術に対応するために、企業等と定期的な会合を持ち、要請内容を把握し、具体的な授業科目や授業内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。また企業等に協力をいただき、卒業生に対する定期的なアンケートを実施し、教

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は日産横浜自動車大学校 教育部内に設置し、教育課程の編成を行いカリキュラムを策定する。また他の日産自動車大学校の教育編成委員会と連携を取りながら、日産校としての一貫性を保つ。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森下 義幸	(一社)神奈川県自動車整備振興会 専務理事	2023.4.1~2024.3.31	①
柏木 勝巳	(一社)神奈川県自動車整備振興会 課長	2023.4.1~2024.3.31	①
金子 裕次	日産自動車販売株式会社 サービス部 部長	2023.4.1~2024.3.31	③
宮本 正人	日産プリンス神奈川販売株式会社 カスタマーサービス部サービス事業室技術支援グループ	2023.4.1~2024.3.31	③
玉生 久典	学校法人日産学園 教育企画部 課長	2023.4.1~2024.3.31	③
以下学内委員		2023.4.1~2024.3.31	
大羽 拓	日産自動車(株) 日本アフターセールス本部 アフターセールスリテンション部 主担	2023.4.1~2024.3.31	
市橋 天	日産横浜自動車大学校 校長	2023.4.1~2024.3.31	
古畑 雅人	日産横浜自動大大学校 教頭	2023.4.1~2024.3.31	
橋本 恭子	日産横浜自動大大学校 学務部 部長	2023.4.1~2024.3.31	
武田 猛	日産横浜自動大大学校 学務部 課長	2023.4.1~2024.3.31	
岩田 利興	日産横浜自動大大学校 教育部 課長	2023.4.1~2024.3.31	
山澤 真二郎	日産横浜自動大大学校 教育部 課長	2023.4.1~2024.3.31	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、●)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年7月6日 15:00~16:30

第2回 令和6年2月予定

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

日産自動車(株)アフターセールス本部が、販売会社の整備士向けに実施している研修内容と整合性を取り、EV授業など内容を最新のものとする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

主たる就職先である日産販売会社で必須とされている、日産サービス技術資格の技能要件を在学中に満たすため、要件を実習に組み込む。そのための教材作成の協力が得られる体制を取ることが可能な企業を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

日産自動車株式会社が制定し日産系販売会社に展開しているサービス技術資格制度およびその技能要件を修得することを目的として、企業等と協議を行い授業内容及び修得要件を定め、当校教員がその授業を代行して実施する。評価についても販売会社に対する要件や認定基準と同じものを適用することを申し合わせ、その基準に基づき評価・認定を行う。その結果については日産自動車の当該部署に報告する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
自動車整備作業 (TS3級エンジン)	1. コンサルトⅢplusによる自己診断が実施でき、表示できる。 2. 故障コードの意味を理解している。 3. 診断結果から故障部位が見つけれ、修復できる。 4. 記憶消去の手順を理解している。	日産自動車株式会社
自動車整備作業 (エアコン)	1. ゲージマニホールドの取り扱い、真空引きとガス充填 2. 圧力点検、ファンモータ、コンプレッサ、電動ファン等の各回路点検 3. 不具合現象の点検方法	日産自動車株式会社
自動車整備作業 (ECCS)	1. 制御系統別点検(燃料噴射制御、点火制御、アイドル回転数制御、フューエルポンプ制御)をサーキットテストにて測定。 2. 理論的な故障診断ができる。	日産自動車株式会社
自動車検査作業 (2年点検)	1. 乗用車 24ヶ月点検の正しい点検方法および、お客さまに配慮した作業方法を習得する。 2. 指定時間内(90分以内)に点検、調整及び部品の交換が一人で行える。 3. 帳票類の正しい記入ができる。 4. 販売会社で使用されているMOS MMS、及び点検記録簿の記入方法を覚える。	日産自動車株式会社
測定作業 (計測)	車両整備に必要な計測機器(オシロスコープ、メモリハイコーダ、コンサルト(診断器))の取り扱いを習得	日産自動車株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施するにあたり、企業等と連携し、必要となる専門分野に関する知識、技術、技能などを教員が十分に理解・習得し、授業内容・方法の改善工夫等をして授業が実施できるよう、「教育研修」を行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	電動パワートレイン技術講座	連携企業等:	日産自動車株式会社
期間:	R4 8月2日～8月4日	対象:	教員
内容	日産自動車株式会社が販売会社向けに実施している電気自動車の電動パワートレインを整備するに当たり必要な知識・高電圧部品特有の整備及び脱着を安全に行うための作業手順を習得する。		
研修名:	電動パワートレイン基礎講座	連携企業等:	日産自動車株式会社
期間:	R4 9月6日～9月8日	対象:	0
内容	日産自動車株式会社が販売会社向けに実施している電気自動車の電動パワートレインに関するシステム概要及び主要構成部品の基礎知識等を習得する。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専修学校教員研修会	連携企業等:	埼玉県専修学校各種学校協会
期間:	R4年7月2日、7月16日、7月30日	対象:	教員1・2年目
内容	教育心理・授業運営技法・コーチング・コミュニケーション技法の習得・Grディスカッションでの情報共有		
研修名:	令和4年度JAMCA教職員夏研修	連携企業等:	JAMCA
期間:	R4年8月16日～8月19日	対象:	JAMCA会教職員
内容	教育心理・授業運営技法・コーチング・コミュニケーション技法の習得・Grディスカッションでの情報共有		

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	電動パワートレイン技術講座	連携企業等: 日産自動車株式会社
期間:	R5年 8月1日～8月3日	対象: 教員
内容	日産自動車株式会社が販売会社向けに実施している電気自動車の電動パワートレインを整備するに当たり必要な知識・高電圧部品特有の整備及び脱着を安全に行うための作業手順を習得する。	
研修名:	新技術・車両診断研修会	連携企業等: JAMCA
期間:	R5年 8月7日～8月10日	対象: JAMCA教職員
内容	教職員のインストラクションスキルの向上を図り、授業をよりよくすることを目的とする	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専修学校教員研修会	連携企業等: 埼玉県専修学校各種学校協会
期間:	R5年7月2日、7月16日、7月30日	対象: 教員
内容	教育心理・授業運営技法・コーチング・コミュニケーション技法の習得・Grディスカッションでの情報共有	
研修名:	インストラクション向上研修	連携企業等: 株式会社 プロフェッショナルネットワーク
期間:	R5年 8月19日～8月20日	対象: 教員
内容	教職員のインストラクションスキルの向上を図り、授業をよりよくすることを目的とする	
研修名:	令和5年度JAMCA教職員夏研修	連携企業等: JAMCA
期間:	R5年8月2日～8月3日	対象: JAMCA教職員
内容	教員のスキルUP,現場の先生が悩まれている学生への指導法、参加校情報交換の場とする。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校評価の目的は、学校運営・教育活動の改善であり、学校関係者評価は、自己評価結果の客観性・透明性を確保することを目標としている。本校の専攻分野に通じた関係者からの提言、助言は、学内に周知徹底すると同時に、内容を十分分析し、対策案、取り組みの時期の検討につなげていく。対策結果を、次年度の評価で学校関係者の評価をいただくサイクルを継続して回していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	【1-1】理念・目的・育成人材像は定められているか
(2) 学校運営	【2-2】設置法人は、組織運営を適切に行っているか。
(3) 教育活動	【3-1】理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。
(4) 学修成果	【4-1】就職率の向上が図られているか。
(5) 学生支援	【5-1】就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。
(6) 教育環境	【6-1】教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備して
(7) 学生の受入れ募集	【7-1】学生募集を適正、かつ効果的に行っているか。
(8) 財務	【8-1】学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか。
(9) 法令等の遵守	【9-1】法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っている
(10) 社会貢献・地域貢献	【10-1】学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

留学生への経済的支援の具体策の検討、運用が必須であり、企業設立の学校という制約はあるが色々な視点から留学生への支援をする上で、皆様の知見を頂き以下に対応実施中。

1) 留学生奨学金の創設、(2年生時に給付(横浜校対象6名)23年度より実施)

2) 学費支払いの延長

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森下 義幸	(一社)神奈川県自動車整備振興会 専務理事	2023.4.1~2024.3.31	業界団体
柏木 勝巳	(一社)神奈川県自動車整備振興会 神奈川県自動車整備商工組合教育課 課長	2023.4.1~2024.3.31	企業等委員
金子 裕次	日産自動車販売株式会社 サービス部 部長	2023.4.1~2024.3.31	企業等委員
岡本 周子	神奈川日産自動車株式会社 サービス部 課長	2023.4.1~2024.3.31	卒業生
玉生 久典	学校法人日産学園 教育企画部 部長代理	2023.4.1~2024.3.31	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.nissan-gakuen.ac.jp/yokohama/infomation.html>

公表時期: 令和5年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

広く学校関係者(学生、関係する業界、企業等)に対して、教育活動等の情報提供により、公的教育機関としての説明責任を果たすと同時に、広く当校の特色をアピールする機会とする。

また、教育活動の課題も示すことで、関係業界等からの理解や支援を得られることを期待する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校の教育理念 ・人材養成の目標及び教育指導計画・学校の特色
(2) 各学科等の教育	・入学者の受け入れ方針、収容定員、入学生数・在学学生数・学科の特色
(3) 教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織、教員の専門性・校務分掌
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み状況・実習/実技への取組状況 ・就職支援等
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取り組み状況
(6) 学生の生活支援	・学生生活の組織 ・学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・学費サポート
(8) 学校の財務	・日産自動車株式会社の財務
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	・留学生の受け入れ
(11) その他	・学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.nissan-gakuen.ac.jp/yokohama/infomation.html>

公表時期: 令和5年5月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科)													
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	
1	○			自動車工学 (エンジン構造1A)	4ストローク1サイクルガソリンエンジンおよびジーゼルエンジンの構造、作動(本体、潤滑、冷却、制御等)の理解。	1前	25.2	○			○	○	
2	○			自動車工学 (エンジン構造1B)	4ストローク1サイクルガソリンエンジンおよびジーゼルエンジンの構造、作動(本体、潤滑、冷却、制御等)の理解。	1前	18	○			○	○	
3	○			自動車工学 (自動車工学1A)	自動車の基本的な構造、構成部品を理解と、力学や数学、図面などの理解を図る。	1前	14.4	○			○	○	
4	○			自動車工学 (自動車工学1B)	自動車の基本的な構造、構成部品を理解と、力学や数学、図面などの理解を図る。	1前	16.2	○			○	○	
5	○			自動車工学 (自動車工学1C)	自動車の基本的な構造、構成部品を理解と、力学や数学、図面などの理解を図る。	1後	16.2	○			○	○	
6	○			自動車工学 (自動車工学1D)	自動車の基本的な構造、構成部品を理解と、力学や数学、図面などの理解を図る。	1後	16.2	○			○	○	
7	○			自動車工学 (シャシ構造1A)	動力伝達装置(トランスミッション、ディファレンシャル、サスペンション等)を構成する各機構の構造、差動の理解。	1前	28.8	○			○	○	
8	○			自動車工学 (シャシ構造1B)	動力伝達装置(トランスミッション、ディファレンシャル、サスペンション等)を構成する各機構の構造、差動の理解。	1前	23.4	○			○	○	
9	○			自動車工学 (電装品構造1A)	自動車の電気・電子の基礎理論と計算、計器・装置(充電、始動、点火等)の構造、差動の理解。	1前	14.4	○			○	○	
10	○			自動車工学 (電装品構造1B)	自動車の電気・電子の基礎理論と計算、計器・装置(充電、始動、点火等)の構造、差動の理解。	1前	21.6	○			○	○	
11	○			自動車工学 (エンジン構造1C)	4ストローク1サイクルガソリンエンジンおよびジーゼルエンジンの構造、作動(本体、潤滑、冷却、制御等)の理解。	1後	19.8	○			○	○	
12	○			自動車工学 (エンジン構造1D)	4ストローク1サイクルガソリンエンジンおよびジーゼルエンジンの構造、作動(本体、潤滑、冷却、制御等)の理解。	1後	14.4	○			○	○	
13	○			自動車工学 (シャシ構造1C)	動力伝達装置(トランスミッション、ディファレンシャル、サスペンション等)を構成する各機構の構造、差動の理解。	1後	23.4	○			○	○	
14	○			自動車工学 (シャシ構造1D)	動力伝達装置(トランスミッション、ディファレンシャル、サスペンション等)を構成する各機構の構造、差動の理解。	1後	23.4	○			○	○	
15	○			自動車工学 (電装品構造1C)	自動車の電気・電子の基礎理論と計算、計器・装置(充電、始動、点火等)の構造、差動の理解。	1後	18	○			○	○	
16	○			自動車工学 (電装品構造1D)	自動車の電気・電子の基礎理論と計算、計器・装置(充電、始動、点火等)の構造、差動の理解。	1後	23.4	○			○	○	
17	○			整備機器取扱い1A	自動車を整備する上での工具、測定具(ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ等)の構造、取り扱い、保守等の理解。	1前	12.6	○			○	○	
18	○			整備機器取扱い1C	①作業用機器 ②エンジン点検・調整機器 ③電気装置検査・調整機器、測定具の構造、取り扱い、保守等を理解。	1後	14.4	○			○	○	
19	○			お客さま対応授業1	・就職先の日産販売会社で即戦力となるように日産対応スタンダードを身に付ける。 ・社会人として通用する接客の基本を身に付ける。	1前	14.4	○			○	○	
20	○			基礎計算確認試験	・国家試験に出題される計算問題を解けるようにする ・解ける(分かる)喜びを体感し学習意欲を促進する。	1前後	5.4	○			○	○	
21	○			学科統一試験	・国家二級資格に向けて学習の合いを定期的に確認する	1前後	3.6	○			○	○	
22	○			就職授業	就職活動に向けて年間を通して計画的に準備を行う。 ・社会に出る前の準備として職業観及び労働観の醸成を図る。 ・日産販売会社、TSの仕事の日産の歴史などについて学ぶ。	1通期	9	○			○	○	
23	○			自動車整備作業 (エンジン分解組立1)	1. 分解作業によりエンジンの構造を理解し、分解した部品の作動役割を理解する。 2. 組立作業により各部品の締め付けトルクを理解する。	1前	28.8			○	○	○	
24	○			自動車整備作業 (エンジン分解組立2)	1. 分解作業によりエンジンの構造を理解し、分解した部品の作動役割を理解する。 2. 組立作業により各部品の締め付けトルクを理解する。	1前	28.8			○	○	○	

25	○	自動車整備作業 (電制点検整備1)	1. 電子制御の基本回路を読み、点検ができる。 2. 各センサの出力電圧の数値及び特性を理解し、電子制御部品の脱着交換ができる。 3. 電子制御エンジン（ECCS）の基本構造を理解する。 4. システム図からエンジン構成を理解する。 5. 回路図を読み理解する。	1 後	32.4														
26	○	自動車整備作業 (ジーゼルエンジン構造)	1. ジーゼルエンジンの内部構造を理解する。 2. ジーゼルエンジン主要部品の名称、構造、作動、特徴を理解する。 3. ジーゼルエンジンのシリンダヘッド脱着整備手順と注意事項を習得する。	1 後	32.4						○	○	○						
27	○	自動車整備作業 (電制点検整備2)	1. 電子制御の基本回路を読み、点検ができる。 2. 各センサの出力電圧の数値及び特性を理解し、電子制御部品の脱着交換ができる。 3. 電子制御エンジン（ECCS）の基本構造を理解する。 4. システム図からエンジン構成を理解する。 5. 回路図を読み理解する。	1 後	32.4							○	○	○					
28	○	自動車整備作業 (M/T分解組立)	1. クラッチの基本構造を理解する。 2. トランスミッションを分解組立することで基本構造を理解すると共に作業の基本を学ぶ。	1 前	28.8							○	○	○					
29	○	自動車整備作業 (ブレーキ脱着)	1. フロントブレーキパッドの点検、交換作業ができる。 2. リヤドラムブレーキの点検、交換ができる。 3. パーキングブレーキの点検、交換、調整ができる。 4. ブレーキのエア抜き作業ができる。 5. マスターバックの機能点検ができる。	1 後	32.4							○	○	○					
30	○	自動車整備作業 (アクスル脱着)	1. フロントストラットの脱着を体験する。 2. フロントストラット構造を理解する。 3. サスペンションの脱着を体験する。 4. ライフシャフトの脱着を体験する。	1 後	32.4							○	○	○					
31	○	自動車整備作業 (M/T脱着)	1. クラッチ、ミッションの実車よりの脱着の習得。 2. 部品名称及び動力伝達経路を理解する。	1 後	32.4							○	○	○					
32	○	自動車整備作業 (I/A・デフ分解組立)	1. ドライブシャフトの構造・機能を理解する。 2. ファイナルギヤの構造・機能を理解する。 3. ディファレンシャルの構造・機能を理解する。 4. トランスアックスルの構造・機能を理解する。	1 前	28.8							○	○	○					
33	○	自動車整備作業 (電気計測)	1. オームの法則を使った、回路の計算と、抵抗値、電流値、電圧値の推理。 2. サーキット・テスタによる回路の測定。	1 前	28.8							○	○	○					
34	○	自動車整備作業 (電気装置1)	1. 回路図（机上）での故障診断ができる。 2. 灯火ボード故障診断ができる。	1 前	28.8							○	○	○					
35	○	自動車整備作業 (電気装置2)	1. バッテリー交換ができる。 2. バッテリー点検（比重、端子電圧、暗電流）ができる。 3. バッテリー（ブースター）ケーブルの取扱いができる。	1 前	28.8							○	○	○					
36	○	自動車整備作業 (電気装置3)	1. 始動装置の構造、作動を理解する。 2. 始動装置の構造、作動を理解する。	1 後	32.4							○	○	○					
37	○	自動車整備作業 (電気装置4)	1. 充電装置の構造、作動を理解する。 2. 自動車の電気計器の構造、作動を理解する。	1 後	32.4							○	○	○					
38	○	自動車整備作業 (電装実習)	1. 電装品の故障診断が一人で出来る。 2. 基本的な回路点検を、テスターを使用しを行い、不具合箇所の特典が出来る。	1 後	32.4							○	○	○					
39	○	自動車整備作業 (車両取扱)	1. ジャッキアップの作業方法と、そのときの注意点を理解させ、危険予知ができる。 2. タイヤ脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解させる。 3. 基本的な点検の必要性を理解し、点検及び交換作業・良否判定ができる。	1 前	28.8							○	○	○					
40	○	工作作業 (機械工作 & 部品計測)	1. 安全作業、自動車整備における計測作業の必要性、重要性を理解する。 2. 各計測機器の正しい取扱、各測定器の正しい読み取り。	1 前	28.8							○	○	○					
41	○	工作作業 (機械工作 & 部品計測)	1. 安全作業、自動車整備における計測作業の必要性、重要性を理解する。 2. 各計測機器の正しい取扱、各測定器の正しい読み取り。	1 前	28.8							○	○	○					
42	○	測定作業 (部品計測 & 機械工作)	1. 安全作業、自動車整備における計測作業の必要性、重要性を理解する。 2. 各計測機器の正しい取扱、各測定器の正しい読み取り。	1 前	28.8							○	○	○					
43	○	自動車検査作業 (1年点検)	1. 1年点検の習熟 2. オイル交換の習熟 3. ケミカルパーツの交換 4. 点検の一連の作業が効率よく行なえる。 5. お客様対応が出来る	1 後	48.6							○	○	○					

64	○	日産3級学科試験	・日産資格テクニカル・スタッフ3級資格の取得	2 後	1.8	○														
65	○	自動車整備作業 (エンジン車両整備1)	1.実車搭載の吸排気系の脱着方法について体験する。 2.補機ベルトの脱着およびベルト張力の調整方法を習得する。	2 前	32.4					○	○	○								
66	○	自動車整備作業 (エンジン車両整備2)	1.実車搭載の吸排気系の脱着方法について体験する。 2.補機ベルトの脱着およびベルト張力の調整方法を習得する。 3.スタータの脱着方法を習得する。 4.部品検索(FAST)方法について習得する。	2 前	32.4					○	○	○								
67	○	自動車整備作業 (TS3級エンジン・シャシ)	1.コンサルトIII plusによる自己診断が実施でき、表示できる。 2.故障コードの意味を理解している。 3.診断結果から故障部位が見つけれ、修復できる。 4.記憶消去の手順を理解している。	2 後	21.6					○	○	○								
68	○	自動車整備作業 (FR A/T分解組立)	1.FR式A/Tの分解組立と構成部品の構造及び作動の理解 2.自己診断	2 前	32.4					○	○	○								
69	○	自動車整備作業 (FF A/T分解組立)	1.FF式A/Tの分解組立と構成部品の構造及び作動の理解 2.自己診断	2 後	32.4					○	○	○								○
70	○	自動車整備作業 (CVT分解組立)	1.CV Tの分解組立と構成部品の構造及び作動の理解 2.自己診断	2 前	32.4					○	○	○								
71	○	自動車整備作業 (エアコン)	1.ゲージマニホールドの取り扱い、真空引きとガス充填 2.圧力点検、ファンモータ、コンプレッサ、電動ファン等の各回路点検 3.不具合現象の点検方法	2 前	32.4					○	○	○								○
72	○	自動車整備作業 (実践実習)	1.ディスクブレーキの測定が正しく出来る。 2.ブレーキに関する不具合現象と原因が分かる。 3.測定器の取り扱いと読み取りが、正しく出来る。	2 後	21.6					○	○	○								
73	○	自動車整備作業 (電子制御1)	1.サーキットテスターで、暗電流、電圧降下の点検と、結果からの正常・異常の判断。 2.配線図から必要な回路を抜き出し、その点検。 3.コンサルト(診断器)によるエンジン各システムの自己診断やデーター 4.エンジン電子制御系統部品(センサー、アクチュエータ)の脱着、交換	2 前	32.4					○	○	○								
74	○	自動車整備作業 (電子制御2)	エンジン電子制御回路(エアフローメータ、水温センサ、クランク角センサ、インジェクタ等)の故障探究	2 後	32.4					○	○	○								○
75	○	自動車整備作業 (シャシ電装)	1.電装品の故障診断が出来るようになる。 2.基本的な回路点検を、テスターを使用して行い、不具合箇所の特定出来る。	2 前	32.4					○	○	○								
76	○	自動車整備作業 (電動パワートレイン基礎)	1.EV基礎教育の修了(低圧電気取り扱い講習修了) 2.新車6ヶ月、12ヶ月点検が出来る。 3.救急救命、AEDの取り扱いが出来る。	2 後	21.6					○	○	○								
77	○	自動車整備作業 (マルチリンク脱着)	1.アライメントの測定方法およびCCKゲージの取り扱い方法を習得する。 2.マルチリンクサスペンション(Rrサスペンションメンバ含む)の脱着を通して構造を理解する。 3.リヤ・インドラムの構造、脱着を理解、習得する。	2 前	32.4					○	○	○								○
78	○	自動車整備作業 (CVT脱着)	1.CV Tの脱着 2.CV Tの取り付け	2 通	32.4					○	○	○								
79	○	自動車整備作業 (車体分解組立)	1.ボディ全般の脱着及び建付けを体験する。 2.内装部品の脱着を体験する。 3.撥水加工を体験する。	2 後	32.4					○	○	○								
80	○	自動車整備作業 (TS3級電装)	1.配線図集から必要な箇所を抜き取るスキルの向上。 2.回路図から、電気の流れを読み取れる能力の習熟。 3.故障現象から回路を読んで故障原因を特定できる能力を習熟する。 4.故障探究作業に必要な部品の脱着ができるスキルの向上。	2 後	21.6					○	○	○								○
81	○	自動車整備作業 (TS3級対応)	1.24ヶ月点検(マツハプロ車検)完成車両の引き渡し業務(お出迎え～お見送り)がお客さま目線で漏れなくできる。 2.お客さまへの商品説明および提案ができる。 3.追加作業の概算見積書の発行。	2 後	21.6					○	○	○								○
82	○	自動車整備作業 (貨物車整備)	1.貨物車のブレーキ分解組立、トランスミッションの脱着作業 2.ブレーキの分解組立と点検 3.エアブレーキ各種装置の構造、作動の理解と分解組立	2 前	32.4					○	○	○								
83	○	自動車検査作業 (2年点検)	1.乗用車 24ヶ月点検の正しい点検方法および、お客さまに配慮した作業方法を習得する。 2.指定時間内(90分以内)に点検、調整及び部品の交換が一人で行える。 3.帳票類の正しい記入ができる。 4.販売会社で使用されているMOS MMS、及び点検記録簿の記入方法を覚える。	2 後	46.8					○	○	○								○

84	○	車体電装品整備	・電気の基礎を振り返り、正確な電圧、電流抵抗の測定が出来る。 ・車両で電装関係の故障診断を実施するための基礎を振り返り修得する。	2 後	32.4				○	○	○		
合計				○○	科目	2003.4 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
未履修 (不合格) 教科がない場合			
卒業要件： 期末試験 (追試験)、再試験、判定試験の成績、出欠状況ならびに、素行状況を総合して行います。		1学年の学期区分	2 期
履修方法： ・1,2年次：学科は各期に二度、実習は各テーマ終了後に試験を実施し、60点以上で履修とする。		1学期の授業期間	25 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。